



秋田大学 国際戦略

2011年 3月

はじめに

秋田大学(以下, 本学とする)は, 教育文化学部, 医学部, 工学資源学部からなる国立大学法人であり, 以下の3つを基本理念として掲げている。

-
1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
 2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
 3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。
-

これらの理念には, いずれも, 将来にわたって本学が国際的レベルの教育・研究・社会貢献活動を行う決意が述べられている。本学はこれまで海外留学生の受け入れ推進, 海外研究者との交流推進, 国際的資源開発, 21世紀COEプログラムおよびグローバルCOEプログラムに代表される国際的にレベルの高い研究の発信など, 独自の国際交流活動を展開してきた。これらは教職員個人, あるいは各部局の卓越した活動の結果ではあるが, 全学的に合意された国際戦略を導入することでさらなる相乗効果を生み出すことが期待される。

一方, 未来の日本社会が, 好むと好まざるにかかわらず国際社会に組み込まれていく流れの中で, 北東北地域の基幹的高等教育機関である本学には, 国際人として世界で活躍しうる人材を育成すること, また本学の特色を活かし国内外の地域および地球規模での課題解決に貢献することが要請されている。

このような現状から, 本学は2008年2月に, 国際的に開かれた大学, 国際的に魅力のある大学, 国際競争力のある大学へ向けて自己変革していくための学内拠点として国際交流センターを設置した。ここに, 国際戦略を策定し, 本学の有する知的資源を有効活用した明確な行動指針に基づき, 本学の国際化の流れを加速させるとともに国際的評価の向上を目指すものである。

秋田大学の国際戦略を具体化するために, 以下の通り国際化を進めるべき4つの領域を設ける。

-
1. 国際的人材育成
 2. 国際的学術研究
 3. 国際連携協力
 4. 国際交流体制整備
-

秋田大学国際戦略の四領域

基本理念

21世紀の国際社会が求める人材の育成
地球規模および各地域の課題解決への貢献



国際戦略の四領域

1. 国際的人材育成

国内外で活躍できる人材の育成のためには、学部・大学院における教育環境の国際化をより一層促進する必要がある。

国際的な場で活用できるコミュニケーション能力を養うためには英語による授業の増加や「大学英語」授業の少人数化を進めるほか、英語以外の第二外国語教育の充実が図られる必要がある。特に、英語による大学院専門課程教育の設置等を通じたカリキュラムの国際化は、質の高い外国人留学生の獲得に必須である。

また卒業生が国際人として活躍するためには、異文化・多文化に対する柔軟な対応能力を養う必要がある。このため学部学生を中心に海外留学の機会を提供するとともに、海外からの留学生との交流を促進する。また、現在行われている「秋田大学学生海外派遣支援事業」の継続とともに、**短期海外研修事業の制度化を目指す(2011年度)**。

一方で、国際的に活躍できる人材育成の一環として、外国人留学生の受け入れ促進および教育の充実も重要課題である。日本語教育や地域と連携した日本文化学習機会を増やすとともに、本学独自の奨学金制度の充実や住居の確保により、留学生の生活・学習環境の充実を目指す。また、入学1年目の正規留学生および短期留学生の**住居の確保(2012年度)**が緊急課題である。これらを通じて、**留学生数200名の達成を目指す(2013年度)**。

①海外での教育研究を経験する機会を提供し、国際的に活躍できる人材を育成する。

- a. 英語を含む多言語教育の充実
- b. 短期及び長期海外留学の促進
- c. 日本人学生と留学生の交流促進

②海外からの優秀な留学生の受け入れを促進し、秋田大学出身者のネットワークを世界に広げる。

- a. 留学生教育の充実
- b. 留学生の生活支援・学習環境の整備

2. 国際的学術研究

国際的にレベルの高い共同研究の実施, 国際シンポジウムや国際会議の開催・共催を積極的に支援する。

特に資源系分野は, 本学に特長がある研究領域の一つであり, 国際資源学教育研究センターを中心に国際的共同研究の実施および外部資金の獲得を推進していく。また, この実現に向け, **国際資源学教育研究センター戦略**を策定する。(2010年度)。

また, 研究協力上の成果が確実に見込まれる大学・研究機関を精査・選定し, 国際的な共同研究を推進する。

個人の研究者に対しては, 国際的に高く評価されるような優れた研究を生み出すための支援体制を構築する。また, 大学院生や若手教員の研究を目的とした海外研修・留学の支援体制を強化する。

さらに, 海外の優れた研究者との交流を進めるために, 外国人研究者を招聘するための経済的支援事業や, 「**外国人教員・研究員のための生活ガイド**」(仮称)を作成し(2011年度)受け入れ体制を整備する。

① 国際的研究を支援・推進し, 本学および協力大学・地域の研究水準を向上させる。

- a. 資源系研究分野を中心とした共同研究の実施・推進
- b. 国際的水準の研究実施体制の整備
- c. 国際的共同研究に向けた特定地域・大学との連携推進
- d. 国際的な共同研究・シンポジウム実施のための支援の充実
- e. 遠隔会議システムを利用した共同教育研究の推進

② 大学院生・教員の海外派遣を促進し, 本学の研究水準の国際化を目指す。

- a. 「秋田大学研究者海外派遣事業」の継続と大学院生の海外派遣人数の拡大
- b. 外部資金の積極的獲得
- c. サバティカル制度の試行的導入の検討
- d. 海外派遣のための組織的な支援体制整備

③ 外国人研究員・教員の受け入れ・採用を促進し, 本学の研究水準の高度化を目指す。

- a. 優れた外国人教員や研究員の採用・受け入れ促進
- b. 協定校との間での研究者交換・交流の推進
- c. 生活支援の推進

国際戦略の四領域

3. 国際連携協力

本学は、すでに16カ国34大学と大学間協定を、9カ国17学部・部局と学部間協定を締結している（いずれも2010年11月18日現在）。これらの協定は、本学の教育・研究の国際化に資する一方で、本学の教育・研究成果をもって協定校への貢献が可能であるという視点に基づき締結に至ったものである。今後はさらに戦略的に、国際連携協力を進めていく必要がある。

そのためにまず、「国際交流協定締結要項」を定め、協定締結の基準の明確化を図る（2010年度）。また、これらの協定校との連携をより緊密にし、研究者や職員のネットワークを構築する。

特に国際開発協力を考慮し、主な協力対象地域として、アジア・アフリカ地区を定め留学生受け入れと学術成果・技術の提供を通じて積極的な貢献を進める。その実現のために、国際資源学教育研究センター等が核となり政府関係機関や国際機関との連携を図る。また、本学学生の海外派遣先として、その他の地域との連携も戦略的に推進する。海外拠点を設置し（2012年度）、連携促進のための国際連携コーディネータ制度を確立する。

さらに、政府・国際協力機関による海外協力事業への積極的参加を通じて、地球規模の課題解決に寄与していく。

同時に、秋田県を始めとする日本国内の各自治体や北東北地区の高等教育機関との連携を図り、共に国際化を推進していく。

①協定大学・特定地域（アジア・アフリカ地域）との連携関係を重点的に構築し、質の高い学生・研究交流を目指す。

- a. 協定締結の基準の明確化
- b. 協定校を中心とした学生・研究交流の推進
- c. 資源学を核とした特定国の資源系大学との交流推進
- d. 海外拠点化地区の選定と国際連携コーディネータ配置の検討
- e. 協定校を中心とした職員交流の推進

②地方自治体と連携し、教育研究交流や職員交流を推進し、留学生の生活を支援する。

- a. 秋田県との連携
- b. その他地方自治体との連携
- c. 大学キャンパス周辺地域住民との連携

③秋田県内高等教育機関と連携し、留学生教育および国際交流教育を充実させる。

- a. 「大学コンソーシアム秋田」を通じた連携
- b. 秋田県委託「留学生受入拡大・交流ネットワーク構築事業」を活用した連携
- c. 「秋田地域留学生等交流推進会議」を通じた連携

④北東北国立3大学間で連携し、留学生教育および国際交流教育を充実させる。

- a. 北東北国立3大学国際交流実務担当者情報交換会を通じた連携
- b. 北東北国立3大学合同合宿を通じた連携

⑤政府関係機関や国際機関と連携し、国際的な開発協力に貢献する。

- a. 政府関係機関との連携（JICA, JASSO等）
- b. 国際機関との連携（UNESCO, UNICEF, WHO等）

4. 国際交流体制整備

以上の1から3を達成するためには、本学学内においても、国際化に向けた物的・人的・組織的な体制整備をさらに充実させていく必要がある。

学内の情報・掲示の日英語併記化により、海外からの留学生や訪問者、外国人教員への利便性を向上させる。さらに、広報媒体の日英語併記化を進め、秋田大学を希望する留学生・研究者等に積極的に本学の特色を紹介できるようにする。また、広報を活発化させるため、過去の在籍留学生の情報を収集しデータベース化を図る(2011年度)。

国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、国際交流に関わる職員の業務能力向上の機会を提供し、教職員一人ひとりの国際化への意識を高めていく。これらの人材のネットワーク化を図り、秋田大学の全学的な国際化をさらに推進していく。

国際化を推進するため、国際交流センターが主体となり、すべての部局間の連携・役割分担の指針を策定する(2011年度)などを通じて、体制の整備を進めていく。

①学内の外国人留学生・研究者・教員・訪問者への情報提供や情報公開を推進するとともに、学外への広報活動を活発化する。

- a. キャンパス内全案内表示の日英語併記の実現
- b. 国際交流に関する通知・書類の日英語併記の推進
- c. 広報媒体の日英語併記
- d. 海外への広報活動の活発化

②予算措置や啓発活動を実施し、留学生などの受け入れに対する積極的雰囲気醸成を図る。

- a. 国際交流協力教員への教育研究費の重点配分について検討
- b. 国際交流関連会議費の安定的な確保
- c. 教職員対象学内研修会など啓発活動の推進

③国際業務担当職員の強化・育成を図る。

- a. 国際業務担当職員の海外研修制度の導入について検討
- b. 国際業務担当職員の採用・配置のあり方について検討

④帰国留学生を組織化するとともに、学内の国際的ネットワークを構築する。

- a. 過去に秋田大学に留学した留学生のデータベースを作成
- b. 学内国際交流関係者のネットワーク構築

⑤国際交流センターと各部局間の連携・役割分担を明確化する。

- a. 連携・役割分担の指針策定
- b. 各部局国際交流担当職員の連絡会議の開催



秋田大学国際交流センター

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
TEL:018-889-2856 / FAX: 018-889-3012